

リフォーム前



リフォーム後



リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

住む人に守られてきた旧家への思いを少しでも取り戻し改修へ、設計、工事中現場で幾度確認。築後 70 年、更に建設時古建物の柱・梁を再使用の事、小屋裏実測で確認、現在まで改修で隠された小屋梁または大黒柱等、いりろ等で黒光りが、釘等を抜き拭き取り、ありのままに表して見ようと施主と一部設計変更へ、主が出てきた様とか。

古民家の空間は時代と共に家人の使用勝手に改修、つい単純さから複雑さへと変わった様で、天井は低く床の段差等が発生。

もう一度単純化へ、まず床の段差を無くし天井を高く既存の柱・梁を呼び戻し旧家の開放感を、そして美しい海の眺めも取り戻す事が出来た様です。

リフォーム後平面図



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
秋田 修美 (株)タック設計	(株)タック設計	(株)大州建設	約70年	在来木造	一戸建	平成24年5月	43日間	428万円	床の段差解消を基準に、居室を中心に室内の開放